

【岩見沢校】 岩見沢校100周年記念事業 集まり、つながる CO-RE（コレ）カフェ事業



■ 建物概要

昭和54年築
鉄骨造3階建
延べ床面積7,014㎡

■ 設備概要

カフェワゴン 2台
テーブル席 24席
カウンター席 12席
シンク 1台
ガス給湯器 1台

■ その他

木造フレーム
ピクチャーレール
LED照明
スポットライト
スタンドライト
プロジェクター投影対応
アップライトピアノ演奏対応

■ 事業期間

令和5年10月～令和6年3月

つながる喜びを味わう、
新たなカフェスペース

「キャンパス活性化リノベーション事業」
(開学70周年記念事業)

キャンパスの再生と創造への「共感」。

事業計画に関するお問い合わせ

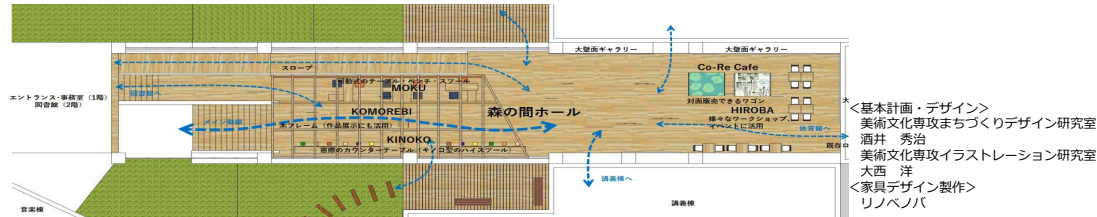
国立大学法人北海道教育大学岩見沢校
広報・地域連携グループ
<https://www.hokkyodai.ac.jp/iwa/>
〒068-8642 岩見沢市緑が丘2丁目34番地

電話:0126-32-0310/0126-32-0312
FAX:0126-32-0251
E-mail: iwa-kohe@j.hokkyodai.ac.jp





■ 平面図（改修後）



■ 皆様へのお礼



本事業にたくさんのご関心と応援をお寄せいただきありがとうございました。令和6年3月末に無事改修工事が完了し、早速学生たちの憩いの場となっています。岩見沢校の資源を地域の方々に開放し、街中が芸術・スポーツに溢れ、市民一人一人がウエルビーイングを目指す街になればと願っています。このスペースがその起点となり、多くの繋がりが岩見沢市の活性化の力になれると信じています。引き続き、皆様のご支援並びにご声援を何卒よろしくようお願い申し上げます。

岩見沢校キャンパス長 山本 理人



リノベーションされたホールは、想像以上に私達が望んだ形となりました。多くの人に使われていて、学生でも集まればこのような居場所を作ることができるんだと感じました。これからはよりこの大学の特性を活かした場所になってほしいです。

（美術文化専攻2年 イラストレーション研究室 花越陸）



この度は学生ホール改修事業にご賛同とご寄付をいただきまして、誠にありがとうございました。これまでは学生の姿がなく静かだった学生ホールが、今回のリノベーションにより一気に明るく活気あふれる交流スペースとなり、非常に驚いています。自分たちで考え作ったものが形になり、多くの人に利用してもらうという貴重な経験ができたことをとても嬉しく思います。

（美術文化専攻2年 まちづくりデザイン研究室 小林愛子）

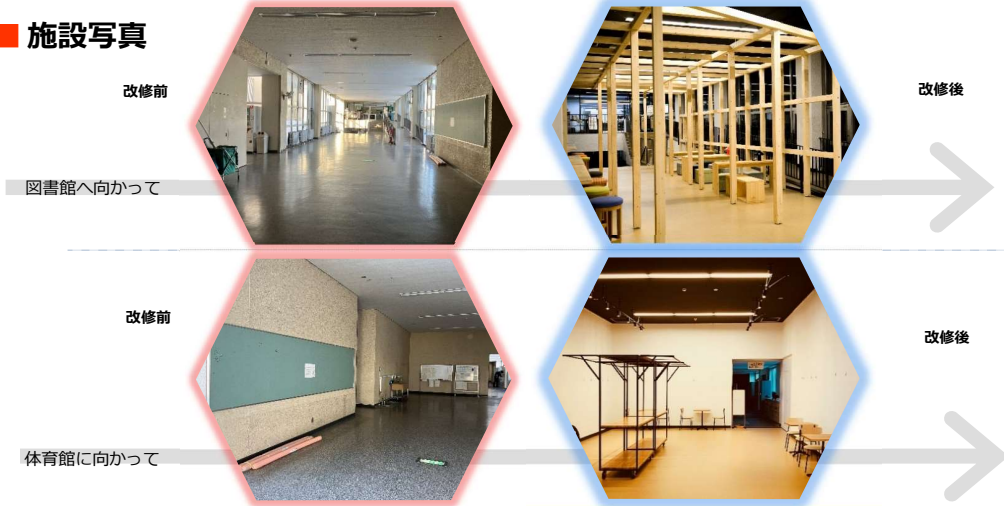
■ 事業の概要

岩見沢校では未活用の学生ホールをリノベーションし、学生や地域の人々が気軽に集まり、交流できるカフェスペースを設置しました。学生同士の交流や情報共有の場が生まれ、地域の人々も大学を訪れて学生との交流をもつことができます。これにより、新たなつながりが生まれ、地域の活性化に寄与できると考えています。

■ 当事業に対する寄附金 ～皆様からの【共感】～

寄附総額2,300千円（寄附目標額2,250千円／達成率102%）

■ 施設写真



■ 事業の内容（デザインコンセプト）

◆デザインコンセプト～キャンパスの環境・人・活動をつなぐ『森の間ホール』

森にいだかれる自然豊かなキャンパス、中庭と緑地帯にはさみこまれたガラスキューブ状の空間特性、先行して整備された「森の岩ギャラリー」との関係性を踏まえて、新たなホールの名称/コンセプトを『森の間ホール』とし、学生・来訪者にとってリビングのような居心地良さと内外の環境が連続するデザインを目指しています。

◆木フレームのトンネル「KOMOREBI」

キャンパス施設の中心に位置し、どこへアクセスするにも常に通る森の間ホール。空間の象徴的存在として北海道の森林資源を活用した木フレームのトンネルを配置しています。木肌のあたたかみ、こぼれる優しい光は、記憶に残るつづける空間体験となります。また、通路帯との間の柱が、滞留空間を領域化し落ち着いた居場所となります。

◆学生が学びながら、つくり、使いこなし成長するホール

学生の創造活動を受け止める寛容で柔軟な余白（＝間）のあるデザインを大切にしています。天井面まで広く自由に活用できる壁面ギャラリー。木フレームと組み込まれたボックス棚も様々な展示・インスタレーションを引き出していきましょう。また、道産トドマツ集成材のベンチ・テーブル等は学生団体「リノボバ」がデザイン・製作したものです。今後、地域事業者と連携したカフェの運営企画にも主体的に関わっていきます。

